

## 8 褥瘡患者における麻黄附子細辛湯の CRP 改善効果についての検討

鳥海善貴<sup>1,2</sup> 亀井 勉<sup>1,2</sup> 熊野宏昭<sup>3</sup> 富岡治明<sup>4</sup>

<sup>1</sup>島根難病研 <sup>2</sup>ナーシングセンターひまわり

<sup>3</sup>東北大・医・人間行動学 <sup>4</sup>島根医大・微生物学

〔目的〕麻黄附子細辛湯は、老人や虚弱者の感冒等を主な適応としている。われわれは、麻黄附子細辛湯が耐性菌感染症に対し有効であった症例を経験してきた。そこで今回、4日間のlevofloxacin(LVFX)投与でCRP値が依然高値であった褥瘡を伴う高齢の有熱者に、麻黄附子細辛湯（コタロー麻黄附子細辛湯エキスカプセル〔以下 NC127〕、1日服用量は6カプセル〔1200mg〕）を1/2の服用量で用い、体温とCRP値等の変化を調べた。

〔症例〕85才女性。1999年初旬頃より臥床して過ごす事が多くなってきた。4月下旬に仙骨部に褥瘡を認め、体位交換、ガーゼ保護等で経過観察するも徐々に悪化した。6月10日には径5.7x3.7cm、深さは皮下組織に達し、同部位より排膿、悪臭を認めた。6月11日に38.3℃の発熱が出現したため(WBC 9960/F, N. Seg. 87.7%, Lym. 7.5%, CRP 5.48mg/dl) LVFX 300mg を4日間投与したところ、37.1℃まで改善したが、CRP値は5.54mg/dl とほとんど変化していなかった(WBC 9250/F, N. Seg. 85.4%, Lym. 8.6%)。そこで600mgのNC127を7日間投与した結果、CRP値も3.03mg/dl まで低下した(WBC 5910/F, N. Seg. 77.8%, Lym. 16.1%)。

〔結論〕麻黄附子細辛湯が耐性菌感染症に対して有効であった症例経験をふまえ、今回、褥瘡患者へ投与を行った。褥瘡がかなり大きく深部まで達していたためかCRP値は基準値までは戻らなかったが、褥瘡患者のCRP値を比較的容易に改善させる効果が期待できると思われた。